

一 史料の出典は、適宜本文中に示した。なお、既刊『新修亀岡市史』資料編に収載した史料については、その収載番号を示した。文献史料に関する資料編の構成は次のとおりである。

資料編一 古代編・中世編

資料編二 近世編(領主編・広域編・地域編・別冊(図版))

資料編三 近代編・現代編

一 史料の所蔵などについては、『新修亀岡市史』資料編第二巻の巻末「掲載資料群一覧」に含まれるものが多いので、そちらを参照されたい。

一 執筆にあたって参考にした文献は、必要なものは本文中に簡略に示し、その詳細や全般にかかわるものは、巻末の参考文献一覧に示した。

一 巻末に写真・図・表一覧を付した。図・表の出典や写真の所蔵は掲載箇所を示し、巻末には、写真の提供・転載情報などを付加した。

一 歴史用語として身分や差別にかかわることばを使用した場合があるが、これを誤用することなく、人権尊重、人間解放の観点にたつて、本書を正しく活用していただきたい。

新修亀岡市史 本文編第二巻 目次

発刊のことば 栗山 正隆
監修のことば 上田 正昭

第一章 動乱の丹波

第一節 南北朝の戦乱と足利尊氏

動乱前夜の亀岡地域

北条氏打倒へのうねり

参集した丹波の武士たち

建武新政と亀岡地域

後醍醐天皇と建武新政

足利高氏の登場

足利高氏の挙兵

足利高氏願文

鎌倉幕府滅亡

室町幕府の創設

足利尊氏御判御教書

明応の政変と上原元秀 細川政元の丹波支配 細川高国の台頭 国衆武士の登場 高国と丹波衆との離間 柳本賢治の活躍 細川晴国と丹波 波多野秀忠による丹波領国化

三好政権と内藤・波多野氏……………

三好長慶による丹波経略 内藤宗勝(松永長頼)の介入 戦国最末期の丹波

戦国時代丹波の歴史的位置

八〇

第一節 中世後期の莊園と村落…………… 六

借物と借錢　　違乱と押領

中世後期の莊園所領……………100

禁裏御料所上村莊　　中原家領隼人保　　吉田社領石田莊　　松尾社領桑田莊(桑田神戶田・小川神戶田)　　醍醐寺三寶院領篠村莊　　醍醐寺三寶院領佐伯莊

天龍寺領瓦屋莊　　等持寺大仏師領國分寺(莊)　　宝鏡寺領矢田莊(八田莊)

賦課と權益をめぐる闘い……………103

川関と木材筏　　山野・用水をめぐる闘い……………108

在地勢力の成長と中世村落……………118

非法と逃散 惣と村落 村落共同体と宮座

第二節 丹波猿楽の盛衰……………二五

国の猿楽者たち……………二五

丹波猿楽の胎動 丹波の諸猿楽……………二五

被差別民と芸能……………二三

祝言の芸能 声聞師の猿楽への進出 「丹州の庭掃」……………二三

矢田猿楽の演能活動……………二七

矢田猿楽と伏見御香宮 御香宮楽頭を離れて 戦国時代の矢田猿楽……………二七

第三節 禅宗の展開と丹波の仏教……………一五

中世後期の天台・真言宗……………一五

顕密仏教の動向 穴太寺と朝廷・幕府 神尾山金輪寺と高山寺 中世後期の金輪寺 中原康富と在地寺庵 愛宕山と寺院……………一五

五山禅宗の台頭と丹波……………一六

天龍寺の造営と五山 丹波と禅宗 五山領荘園の広がり 五山派末寺の展開……………一七

妙心寺派の展開……………一七

細川氏と妙心寺派 妙心寺の禅僧と龍潭寺 妙心寺派末寺の展開 中世末の諸宗派の展開……………一七

第四節 中世後期の美術と建築……………一四

室町時代の絵画……………一四

仏画 肖像画……………一四

室町時代の彫刻……………一六

仏像 肖像彫刻 獅子・狛犬 石造彫刻……………一六

室町時代の工芸……………一六

金工品 石造品……………二〇

室町時代の寺社建築……………二〇

足利氏と篠村八幡宮 出雲大神宮本殿 禅宗寺院の建築 大工の知行地と丹波国工 村むらの神社……………二〇

第三章 近世の黎明

第一節 明智光秀の丹波統一……………二三

明智光秀の出自と台頭……………二三

義昭・信長との出会い 畿内での活躍 近江坂本城主……………二三

黒井城・八上城の攻防……………三六

光秀以前の丹波 丹波攻略命令 黒井城の敗戦 亀山築城 丹波経略の再開……………三六

荒木村重の反乱	八上城落城	中世丹波の終わり	二四八
本能寺の変と丹波武士			
光秀の丹波支配	本能寺の変	山崎合戦と光秀の死	本能寺の変の背景
丹波の近世化と光秀			

第二節 初期領主の時代と亀山城の築城

豊臣政権下の亀山	二六二		
天下人への道	秀吉と亀山	初期領主の変遷	江戸幕府開設と亀山藩の成立
二六二			
亀山城の築城と整備	二六六		
明智光秀による築城	丹波攻略・本能寺の変と亀山城	光秀死後の亀山城整備と	
二六六			
天下普請	絵図から見た亀山城		
二六六			
明治維新と亀山城	二六〇		
二六〇			
亀山城の荒廃	古写真からみた亀山城	亀山城の破却処分と焼瓦の売却	
二六〇			

第三節 近世亀山城の天守と城の構造

亀山城の天守	二六八
天守の規模と形式	全国初の層塔型天守
亀山城の構造	二九七
城の形式と縄張の概要	本丸 西の丸・二の丸 三の丸 総構 亀山城の

特色

第四節 近世郷村の成立と構造

近世郷村の成立	三三三			
丹波の太閤検地	亀岡地域の郷村			
中世的遺制としての郷と近世村	三七七			
現代に残る郷	南山入会と近世村	錯綜する郷		
近世村の特徴と景観	三六六			
村高の変遷	村の豊かさ	集落の構成と変遷	一村一集落の土ヶ畑村	一村
多集落の美濃田村				

第四章 近世の領主支配と亀山藩

第一節 亀山藩の成立と支配

幕藩体制の確立と亀山藩の成立	三四二					
江戸幕府の成立と亀山藩	亀山藩の政治的位置	藩主の移封と城引継				
亀山藩の歴代藩主	三四六					
歴代藩主	岡部氏	大給松平氏	菅沼氏	藤井松平氏	久世氏	井上氏
青山氏	形原松平氏					

幕政における亀山藩の役割	三二
幕府要職 参勤交代 江戸在勤中の責務 藩の責務 諸使節の対応	
藩政組織	三六
亀山藩の職制 領地と組制 氷上郡の飛地支配 備中国の飛地支配	
亀山藩の民政	三八
法の執行 農産業 灌漑用水 治水対策 城下町と防火対策 藩と寺社	
幕府の領主配置策	三九
近世初頭における領主配置 初期亀山藩領 園部藩領 篠山藩領 高槻藩領	
仙洞御料 旗本知行地	四〇
旗本の支配	四七
武田氏の支配 津田氏の支配 杉浦氏の支配 村上氏の支配 能勢氏の支配	
相給の村	四五

第三節 亀山藩の学校と学問

形原松平氏の入封と学制整備	四三
旧亀岡藩学制沿革取調書 松平信庸と松崎祐之 幕政への学問的貢献 松平信	
岑による学制整備と皆川淇園 『史徴』の上梓	四五

藩政改革と藩学制の再建	四三
士風減退と正学派朱子学の提唱 邁訓堂と藩士子弟教育 藩士子弟の学校生活	
幕末における藩校の変化 亀山藩における藩校と学問の変遷	四五

第五章 城下町と村の構造

第一節 亀山城下の町と村

城下町のすがた	四四
旅人の見た亀山城下町 城下の町と村 武家地・寺社地・町人地 内町と外町	
城下の村のようす	四四
城下の人びと	四四
城下の戸口と町役 城下の人びとの仕事 大店と小商い	
城下の暮らし	四六
町政のしくみ 町の暮らし 城下の歳時記 新しい時代へ	
村の構成と運営	四七
村役人と村人	四七
村役人の配置 庄屋の就任 庄屋の給米 さまざまな村役人 庄屋年行司	
長百姓・小百姓	四七

村と地方支配	四六九	
亀山藩の郡方支配	村の定	五人組と宗旨改
年貢の徴収	四九七	
本途物成	小物成	
村の文書	五〇一	
引継ぎ文書	文書の保管	
被差別の村と人びと	五〇七	
村の成り立ち	本村のなかの集落	新たに成立した集落
「嶋」と草場	村を支える人びと	差別と賤称の推移
第三節		
弓射連中・宮座・株と祭礼	五〇八	
弓射連中	五〇八	
山陰道鎮撫使	弓射連中の発足と地侍	弓射連中の規模
概要	領主側の対応	誘引・席順
宮座・株と祭礼	申合せ・議定録	弓会の
宮座と「苗」	宮座の組織と神祭事	座礼のかたち
宮の当	祭礼のいろいろ	
第四節		
入会山と山論	五五五	
入会山の利用と管理	五五五	

さまざまな山林	山林の利用	入会山の管理
多発する山論		五二
諸地域の山論	村むらの結合と対立	連鎖する山論
山論と村内階層・身分		五三
山論入用と村方騒動	保津山山論	
第五節		
水利・水論と新田開発		五〇
水利・水論		五〇
近世の水利・水論	寅天井組七カ村内争論	用水の分水
岸村むらとの水論	大堰川上流の井堰における争論	溜め池の利用
な水や川の用益	七谷川筋の争論	さまざま
新田開発		五七
近世の新田	今津新田	大芝原新田
	樋之嶋新田	寺村奥山新田

第六章 村落のなりわい

目次	
第一節	六〇六
農村の生活	六〇六
村に住まう人びと	六〇六
亀岡地域の村むら	六〇六
さまざまな生業	六〇六
家のかたち	六〇六
行き交う人びと	六〇六

村落生活の諸相……………六七

家財と道具 倭約定にみる暮らし 豊かさの裏に……………六六

暮らしの中の旅……………六六

江戸時代の旅 ささまざまな旅 お伊勢参り 参宮旅行の実相……………六五

近世の村の住いと住い方……………六五

掘建てから石場建てへ 屋内の暮らしぶり 摂丹型の妻入屋 破風をめぐる争い……………六四

第二節 諸産業の展開……………六六

商品作物の進展……………六六

農業技術の発展と生産活動 商品作物の栽培 菜種の栽培と油絞り……………六五

地域産業……………六五

亀岡地域の酒造 大石家の酒造 桑田郡の寒天製造 亀岡地域の砥石産業 亀……………六四

岡地域の鋳物業 鋳物師仲間 鋳物師仲間配下の鋳掛職人 亀岡地域の御用炭……………六三

第三節 街道と往来……………六六

山陰道……………六六

街道筋の景観 亀山城下の街道と五口 丹波路最初の宿駅……………六五

なりわいの道……………六五

街道筋の馬持・荷問屋 山あいの運送 巡礼道と城下の旅籠……………六四

祈りとレクリエーションの道……………六〇

亀山の人びとと旅 愛宕山越から穴太寺・善峰寺へ 愛宕道 妙見道……………六二

伊能忠敬測量の道……………六二

伊能測量隊亀山に来る 測量隊亀山本陣に止宿……………六一

第四節 保津川の水運……………六九

近世保津川水運の始まり……………六九

秀吉の朱印状 角倉了以保津川を開く……………七〇

丹波材の筏流し……………七〇

亀山運上所 山方と筏問屋 筏指子の活躍台頭……………七一

船運の開始……………七一

高瀬船の保津川船運 保津浜の船着場 船荷・運賃……………七二

第七章 文化の広がり

第一節 近世の寺院と神社……………七三

近世寺社の成立……………七三

近世寺社の概観 寺院の宗派と末寺 近世寺社の成立……………七四

亀山藩の寺社政策	七六
藩主と寺社 朱印地・黒印地・除地 宗門人別と寺檀制 キリシタン禁制 日奥と日蓮宗不受不施派	
地域社会の中の寺院・神社	七六七
寺社の機能 寺社の学問文化 霊場寺院 開帳 地域霊場 廻国する宗教者	
丹波国と吉田家	七七一
神社・神職・氏子 丹波国社法取締役の成立 諸社の対応 主基田	
第二節 学問と思想の展開	七六九
前期国文学と諸学	
安藤家の人びと 安藤兄弟と水戸彰考館 亀山ゆかりの学者たち	
石田梅岩と石門心学	七七七
梅岩の生い立ち 石門心学の提唱 石門心学の思想 梅岩その後	
近世後期の思想潮流	七八〇
皆川淇園とその門流 藩儒と在郷の学問 幕末の文人志士	
第三節 教育と文化の普及	八〇一
石門心学の普及	
亀岡地域への心学者の来訪 東掛村での心学の普及 亀山藩と心学 心学者	

の亀岡地域での活躍 石門心学者の梅岩生地への訪問	八〇二
俳諧文化の発展	八二一
京都の俳諧文化と亀岡地域の俳人たち 俳諧ネットワークの成立 村の俳諧師 匠たち	
教育の普及と文人の成立	八二九
寺子屋と庶民教育 書物の流通と蔵書の形成 書物の普及と地方文人の成立 娯楽の普及と書物 武家文化の庶民への普及 文化をめぐる新しい動き	
第四節 紀行と地誌	八三一
名所と紀行	
幕府の地誌編纂と丹波 亀山への紀行 保津川 丹波国大絵図 他国への 紀行 名所と紀行	
地誌の編纂	八三四
篠山封疆志 俳諧盤魚 太邇波記 丹波志 丹波志の類書 矢部朴齋の 地誌編纂 桑下漫録 地域認識・歴史意識の高揚	

第五節 民家建築と近世絵画	八四四
集落景観と民家のかたち	
亀岡地域の近世民家 集落景観と農家の外観 農家の間取りと構造 亀山城 下町の町並と町家 史料にみる民家と普請	

近世画壇と亀岡地域	八五
狩野派と江戸前期の画派	
円山応挙	
円山四条派	
亀岡の画人雪峨と枝山	

第八章 近代への胎動

第一節 領主支配の展開	八六
-------------	----

形原松平氏の亀山藩入部	八六
領内の組分け	
銀納の制と訴訟箱	
家中への制法	
藩政の諸改革	九〇
『議定書』の制定	
寛政二年の触書	
備荒貯蓄と撫育銀	
文化・文政の改革	
鎌谷東股村の再興	
村掟・儉約定	
財政再建政策	
諸藩と旗本知行地の改革	九〇
諸藩領の農村	
武田氏と杉浦氏	
津田氏と相給地	
第二節 天明の騒動と災害	九一
天明の打ちこわし	九一
社会の変動	
天明の飢饉	
天明七年の打ちこわし	
騒動鎮圧とその結末	
村むらと農民の動き	
天保の飢饉と災害	九三

第三節 幕末の政治・社会変動と亀岡地域	九二
---------------------	----

天保の内憂	
犬甘野村飢饉録	
亀山大変と世情不安	
幕末政局と亀山藩	九三
高騰する諸物価	
志士奥平小太郎	
藩主松平信義の老中就任	
藩政改革運動	
京都の警衛	
禁門の変	
新藩主松平信正と藩政	
幕長戦争から王政復古へ	
幕末社会と亀岡地域の人びと	九四
亀山藩の借財	
文久二年の儉約令にみる村の暮らし	
助郷に苦しむ村	
冥加金を上納する農民	
江戸へ出張する村人	
禁門の変と馬路郷土	

〔巻末資料〕

編さん委員・専門委員一覧	
執筆分担一覧	
資料提供・協力者一覧	
写真・図・表一覧	
参考文献一覧	
近世寺院一覧／近世神社一覧	
丹波国周辺図／丹波国郡境図／亀岡市域の近世村図／近世町・村名一覧	

〔付図〕

- 1 近世の寺社と街道
- 2 大堰川筋絵図
丹波国世木ヨリ保津迄大井川筋絵図
丹波国保津ヨリ山城国嵯峨迄大井川筋絵図
- 3 南野山惣絵図
- 4 大井川筋立合芝原絵図

題字 元亀岡市長 谷口義久

第一章 動乱の丹波